

令和6年11月19日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会



1 日 時 令和6年11月19日(火曜日)

午後1時30分から午後3時まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 金澤 俊道 委 員 鷲尾 達雄 委 員 大久保 真紀  
委 員 廣川 佳予子 委 員 熊倉 達也

4 欠席者

なし

5 職務のため出席した者

教育部長	竹内 正浩	子ども未来部長	星野 麻美
教育部参事(科学博物館長事務取扱)	金垣 孝二	教育総務課長	桜井 秀行
教育施設課長	吉田 朗	学務課長	大竹 美加
学校教育課長	中村 一幸	学校教育課部活動地域移行担当課長	石川 智雄
学校教育課主幹兼管理指導主事	佐々木 潤	学校教育課主幹兼管理指導主事	稲毛 真哉
中央図書館長	梅沢 一茂	子ども・子育て課長	深澤 寿幸
子ども家庭センター所長	大久保 千春	保育課長	江田 佳史
スポーツ振興課長	中山 玄	学校教育課主査兼指導主事	大田 克

6 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 山内 清美 教育総務課庶務係長 今井 香

## 7 議事日程

日程	議案番号	案 件
1	第 32 号	補正予算の要求について
2	第 33 号	条例廃止及び改正の申出について (長岡市川口文化会館条例の廃止等について)
3	第 34 号	条例改正の申出について (長岡市学校給食共同調理場条例の一部改正について)
4	第 35 号	条例改正の申出について (長岡市立学校体育施設開放条例の一部改正について)

## 8 会議の経過

(金澤教育長) これより教育委員会 11 月定例会を開会します。

---

### ◇日程第 1 会議録署名委員の指名 について

(金澤教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、大久保委員及び熊倉委員を指名します。

---

### ◇日程第 2 議案第 32 号について

(金澤教育長) 日程第 2 議案第 32 号についてです。この内容から協議報告事項の「令和 7 年度新規事業等について」までについては、公表前の内容が含まれているため、非公開が適当ではないかと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) では、非公開にしますので、関係者以外は退席してください。

—会議規則第 20 条第 2 項の規定により公表しない—

---

(金澤教育長) 次に、年間授業時数等の適正配当について 事務局の説明をお願いします。

(佐々木学校教育課主幹兼管理指導主事) 年間授業時数等の適正配当について説明します。学習指導要領では、小学校 4 年生以上と中学校は、学校独自で定める行事等の時数を除いた各教科等に充てる年間の標準授業時数を 1,015 時間とし、年間 35 週以上の授業を行うように明記しています。令和 6 年 8 月 27 日に中央教育審議会から、標準授業時数を大幅に上回っている教育課程を編成している学校に対しては、年間授業時数を見直すよ

う答申が出ています。標準授業数を大幅に上回る時数については、年間 1,086 時間以上の授業時間をとっている学校とされています。現状では、市内の多くの学校はこの標準時間数が 1,015 時間を下回らないように、年間 35 週、週 29 時間の授業時間を設定しています。35×29 で 1,015 時間となります。一方で、実際には年間 40 週ほど授業日を確保できることから、週 29 時間の授業時数設定で年間 1,160 時間となり、標準授業時間数を大幅に上回る状況です。これを改め、年間授業時数の配当や校時表を見直し、放課後の時間を生み出すことで、教職員が余裕を持って授業準備を進め、子どもたちにより質の高い授業を提供することができる環境を整備することを目的に、以下の点について、市立学校長へ通知したいと考えています。まず、学習指導要領で定める年間授業時数の配当については、学校が独自に定めている行事等を除き、各教科等に充てる時数の合計を 1,055 時間とし、標準の 1,015 時間にプラス 40 時間以内で設定することを考えています。プラス 40 時間については、1 日 5 時間で考えると 8 日分の余剰となり、学級閉鎖等があった場合にも対応できる時数であると考えています。各学校で設定する行事等の時数を含め、1,086 時間を下回るよう年間授業時数を配当するよう通知したいと思いましたが、これについては各学校の取組内容によって軽重が考えられるため、努力事項として示したいと考えています。休みの日を増やすのではなく、6 限の日をできるだけ少なくし、日常的に 5 限下校の日を増やすことで、放課後の時間を生み出すように、週 26 時間、6 限の日を週 1 日を目標に、教育課程を編成するように通知をしたいと考えています。また、通知にあたっては、別紙 1 から 3 の資料を提示したいと考えています。別紙 1 では、例えば一般的な学校でとっている 208 日位の日程で毎日 5 時間の校時表では、年間 1,040 時間という時数を確保できるということがわかりました。ただ、全ての日を 5 時間で計算していますので、例えば行事などで短縮の日が年に何回かある場合は、若干時数が減ってしまうと考えられます。通常を 5 限のみとし、夏休みの期間を少し短くすると、215 日という日数を確保した場合には 1,075 時間という時間を確保できる状況が分かります。木曜に 6 限を一日設定した場合、現段階の状況では 1,084 時間、休みを少し減らして 215 にすると 1,121 時間確保することができるため、1,121 時間程度確保できれば、若干調整しながらも必要な時数を確保できると思います。長岡市の現状では、中学校 1、2 年生が非常に余剰時数が多い状況です。これは、中学校 3 年生は 3 月の早い段階で卒業することから、日数が 1 ヶ月ぐらい減っているために、そのような状況が起きています。例えば中学校 3 年生については、1 学期を 6 限 1 コマ、2 学期については 6 限を 2 コマで計算すると、ある程度の時数を確保できるため、参考資料として各学校に示したいと考えています。別紙 2 については、一年間の授業日数を図で表したものです。表に「1」を入力することで時数が具体的に計算されます。具体的に年間の授業日数を計算できる参考資料として提示したいと思えます。別紙 3 は、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの年間時数配当表になります。計算していくと、小学校 1 年生の上の段に標準時数が横に並んでいて、配當時数に余剰時間をプラスして、合計が 850 時間プラス 40 時間になるように計算できる資料として考えて

います。各学校にはできるだけ5限の日を増やす形で、年間授業時数等の適正配当を進めていきたいと考えています。

(金澤教育長) 放課後に余裕を持たせたい。そして子どもたちへの教育をしたい。しかし、中学校は教師の持ちコマ数が決まっているため、教科担任制で導入すると現場は最初戸惑いがあると思いますが、長岡の教育を変えて行きたいと思います。

(金澤教育長) 熊倉委員いかがでしょうか。

(熊倉委員) 規定の授業時数に満たないと大変なことは、これまでの経験上分かっていますが、オーバーする分についてはたくさん勉強しているのだからこれまでは目をつぶってきた。それをなぜ減らすかについては、中央教育審議会が見直すように言っているからという理由ですが、現場にどう説明するかですね。5限の日を増やして放課後にゆとりを持たせるなど、教師の働き方改革があると思います。メリットの部分や、年間授業時数等の見直しをする理由についてしっかりと説明しないと、今までやってきたことが違うと捉えられると困るのではないかというのが率直な感想です。

(金澤教育長) それについて、事務局からコメントをお願いします。

(佐々木学校教育課主幹兼管理指導主事) 私も経験がありますが、基本的に学校では年間授業時数を週6限が4コマで計算していくと、ものすごく余剰が出てきます。それを各教科に振り分けて、例えば国語でも年間30数時間を余剰に入れるなどしていましたが、実際には教科書の内容についても、教科書の指定された標準時数の中で余裕を持って作られています。現状、働き方改革の中では、平均超勤時間を見ると毎日の様子はそれほど変わっておらず、業務自体が減っているわけではなく、何とかやりくりして多忙感を払拭し努力してきています。物理的にコマ数が減らない限りは、圧縮されないという状況もあるので、今回は思い切って、物理的に放課後の時間を増やしてその中で良い授業作りを進めていくような形をとることで、子どもたちに対する教育の質を上げたいという思いで、今回、年間授業時数等の適正配当をさせていただきたいと思っています。何校か学校訪問をして、先生たちが授業作りをし、生き生きと子どもたちと向き合っている姿を見ています。子どもたちと向き合う時間をより確保、設定できるように進めたいと思います。先生方にやりがいを持っていただきたいという思いがありますので、そういう時間を設定できるよう進めさせていただきたいという思いがあります。

(熊倉委員) 教材研究をする時間が無いという教育現場の悩みですね。それを教育委員会として5限で終わって6限以降を会議や先生方の教育教材研究の時間に使いましょう、という強いメッセージがあると、現場としては受け入れやすい。教科によっては、もっと時間が欲しいとなるかもしれませんが、大きな枠組みとしては先生方の授業教材研究の時間をとって授業の質を上げましょうというメッセージとして受け取って良いでしょう。

(金澤教育長) 他にいかがですか。

(金澤教育長) 他に御質疑、御意見なしと認めます。

---

(金澤教育長) 続きまして、令和6年度 第2回長岡市子ども・子育て会議報告について事務局の説明をお願いします。

(深澤子ども・子育て課長) 令和6年度第2回長岡市子ども・子育て会議を10月21日に開催しました。委員20名の内16名とアドバイザーに出席いただきました。会議内容としては、子どもナビゲーターからの報告、長岡市子どもの貧困対策連絡会議の報告、児童クラブの委託化に係るプロポーザル結果、こども計画に係る長岡市の若者の意識調査の報告や、長岡市こども計画について議論いただきました。会議においては、来年度の児童クラブの委託について、児童厚生員に対する十分な説明に配慮してほしいという意見や、こども計画に記載されている施策の「一時保育」と「こども誰でも通園制度」について、園と保護者の理解に繋がるような記述をして欲しいといった様々な御意見を委員の皆様からいただきました。最後に、小池アドバイザーから児童クラブの民間委託についてや、こども計画を含めて総評をいただきました。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) 御質疑、御意見なしと認めます。

---

(金澤教育長) これをもちまして報告事項を終了します。

---

(金澤教育長) それでは次に、催し案内等について説明願います。

(大竹学務課長) 学務課では「新潟県教育月間」である11月を「米飯給食、地場産給食推進月間」とし、県内で一斉に米及び地域の地場産物を学校給食で提供します。これに併せて、「キラッと新潟米☆地場もん献立」を提供します。食育資料として提示資料や栄養教職員の研修グループが里芋等の産地を訪問した動画を作成し、市内公立小中学校に限定でYouTubeのURLを公開します。

(中村学校教育課長) 「科学探求塾」を11月30日(土)教育センターで開催します。第3回となる今回は医療編です。新潟薬科大学から講師を招いて、血液を顕微鏡で観察したり、感染症の診断やワクチンについて学んだり人体模型で体内の働きについて考えます。次に、「ながおか小学生ロボコン大会」が12月8日(日)長岡工業高等専門学校体育館で開催されます。「熱中!感動!夢づくり教育」の一環として、小学校のクラブ活動の時間にロボコン教室を実施しており、その成果の場として開催します。

(梅沢中央図書館長) 「第18回ながおかのこども作品展」は市内の小中学生・園児が一年間の活動や図工・美術の授業で制作した作品約600点を展示し、鑑賞する機会を設けるものです。次に、「巳年の張り子 絵付けワークショップ」を12月14日、15日に3回、各定員8人で募集し開催します。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) 学務課の「キラッと新潟米☆地場もん献立」を新町小学校で給食を食べてきました。動画は「こめぶら」には載せることはできないのですか。

(大竹学務課長) 今回の動画は小中学校限定のため、こめぷらに掲載はできません。

(金澤教育長) 動画等ある時は、事前に掲載が可能かどうか確認してください。

---

(金澤教育長) さて、本日は、脇野町小学校、新町小学校、三島中学校を訪問しました。気づいた課題や今後の改善提案等がある委員は挙手願います。

(鷲尾委員) 自身の学校区に近い関こともあり、新町小学校に対するイメージの先入観がありました。校長先生との懇談会を通じて校長先生に迷いや悩みが多いと質疑応答の中で感じていました。校長先生から、指導主事の先生方から指導をたくさん仰いでいるとの話があり、学校が抱えている問題を解決するために指導主事の先生方がいるのだと改めて感じて帰って来ました。毎回現場に行き、元気印の素敵な校長先生方とお会いして、頑張っていて素敵だと思いながら帰ることが大半です。今日は校長先生から赤裸々に「しんどい」と、休みがちな先生の課題や、子どもたちと自分が対話を深める授業をしたいが、なかなか先生方との関係性の中でそこへ踏み込めないジレンマなどについてもお聞きでき、従来にはない感じの学校訪問でした。

(熊倉委員) 新町小学校に行ってきました。授業イノベーションをテーマに、対話を大切にしたい授業作りとのことで興味深く伺いました。始めて2年目なのですが、校長先生から「これをやりたい」と言ったときに、組織として、また子どもたちも含めて、「よしやろう」という熱がなかなか出てこないと感じたので、今年は逆に一步引いたんだそうです。一度、1年目に広げたテーマを絞って、対話は子どもたちの話し合いでできる所から始めてみようというスタンスを感じました。校長先生がやりたいことを、いつどのタイミングでどういうやり方で先生方に浸透させるかなど、一本化して持っていくのは非常に難しく、悩みながらされていると感じ、応援して帰ってきました。

(金澤教育長) 廣川委員も授業イノベーションについて、話したいことがあると思います。

(廣川委員) 三島中学校を訪問しました。2年生の社会科の授業と、1年生の学級の授業でした。2年生の授業で、授業イノベーションに取り組み始めた授業を見てきました。先週まで普通の授業をしていたのに、今日蓋を開けたら先生がいつもと違う授業をしていると、子どもたちも先生もお互いにフレッシュな感じで、スタートの導入から、どこに着地するのかドキドキしながら見てきました。取り組んでいる先生が、上から言われて嫌々している感じではなく、自分も何かやりたいと模索している姿が伺えて、子供たちからも模索している先生を応援したいという呼応を感じ、回数を重ねていくと素敵な授業になるのではと感じました。1年生では、養護教諭と担任の先生が入った心のSOSの出し方の授業でした。それはとても良い授業で、具体的にSOSを出すやり方の実践的なレクチャーや、入力したものを一斉に子どもたちが提出する場面でも、子どもたちが実際に提出したものを声に出して読み上げることで、字面だけではなく言葉で共有する場面もあり、ハートウォーミングな授業を見させていただきました。これも授業イノベーションだと感じました。

(大久保委員) 脇野町小学校を訪問しました。校長先生はとても元気で、たくさんのお話をしてくれました。今回は5年生の理科の授業を見せていただきましたが、先生と生徒との関係はとても良いと感じました。先生が授業を始めるときに、キャラクターになった先生の動画で子どもたちをひきつけて、その後、そのキャラクターが指令を出して授業が始まりました。イノベーションとしては色々な取組をされていました。150周年のキャラクターを作り、キャラクターを「イチゴマル 150 ラーニング」としてイノベーションをしているそうです。どんどん使ってほしいと紹介がありましたので、興味のある方は使ってください。そして、タブレットは機械だなというのを私はすごく感じました。個別最適で、できる子どもたちはどんどん進んで、多分、学ぶことが面白いと感じている子どもがいる一方で、タブレットをずっと見たままで、ずっとぼおっとしている子どもが何人かいたので、仲の良い子どもたちだけで会話するのではなく、できる子どもが一人になっている子どもをフォローすることができていくと、授業が良くなると感じました。授業が終わった後、教務主任の先生と研究主任の先生、授業をされた先生と話をしましたが、一人ではなく、3人で授業を作り上げている感じが伝わり、協力して一生懸命授業を作っていると感じました。ただ、机の上に鉛筆も教科書もなく、ノートを取ることもない。タブレットだけで完結していた授業だったので、例えば振り返りたい時や、本当に整理したい時にはまだ課題があると感じました。

(金澤教育長) 教育委員会が旗振りをして、授業を変えていこうと、子どもたちに付けた力をつけていきたいと進めているわけですが、今の話を聞いて学校としてなかなか進みにくい状況や、スタートして間もないことから、手探りの状態の学校や、突っ走っていて心配、などの状況があるようです。これに関して、まず学校教育課から、自分たちが把握していない、委員さんが見てきた現場の状況等を踏まえて、何かありますか。

(稲毛学校教育課主幹兼管理指導主事) 今年3年目で、色々な学校に教育支援として回っていますが、校長面談で、今年ほど校長の口から「授業イノベーション」という言葉が出てくる年はないです。まず学校運営をしている校長が授業を変えていくんだという意識がこの3年で高まってきていることを感じています。二つ目として、本日の脇野町小学校は授業研究に訪問したわけですが、校内研と錬成塾と市教委の教育委員訪問をタイアップして実施しました。それにより、研究主任や授業者、また市教委の指導主事、教育委員の意見を新たに取り入れながら、校内で全員でやっていくという雰囲気ができ、教育委員会の訪問時に授業研究を実施したことが一つのうま味だったと思っています。市教研とタイアップしながら授業イノベーションをしています。市教委と現場が繋がっていく雰囲気が今年は強くあると改めて感じています。

(金澤教育長) 管理職に浸透すること、そして本当の授業者は担任や教科担任であることから、そこに浸透することと、浸透の仕方のイメージの共有ができるか。言葉だけではなく、どういう授業を目指すのかということと、本当に共有できるのか課題はありますが、「こめぷら」は、本丸ではないですね。本丸は、学校教育で言う学校の授業であり、い

かに授業を充実させるかが本当に一番大事なところですよ。腰を据えて、よく現場の実態を見ながらになります。経験が浅い教員や、経験を積み過ぎて変わらない教員もいますが、意欲的な方もいます。そこを踏まえて、時間をかけてきちんと進めていただきたいと思います。

(金澤教育長) 授業イノベーション以外で、何か御質疑はありませんか。

(鷲尾委員) コミュニティスクールについてですが、コロナ禍でPTA活動が進まなくなりましたが、PTA活動を一緒にした仲間達から一番良く聞くことは、学校の様子が分からないことや、先生方との交流もなくなり残念だという声を聞きます。コミュニティスクールを支えていく地域の人達の人材の供給元はPTAだと個人的に思っています。PTA活動も変わらなくてはいけない部分もあると思いますし、残さなければいけない不易の部分もある中で、PTAが無くなると先々のコミュニティスクールの人材供給が根絶するのではという危機感を感じています。コミュニティスクールで、校長先生や教頭先生等の管理職との交流も良いと思いますが、PTAの方々と一般の先生方との交流や繋がり、課題や取組などは何かあるかを校長先生に質問したところ、そこに対する危機感があり、PTAとの繋がりが途絶えないように地域との新陳代謝の促進に取り組んでいる事例を紹介いただき、良かったという思いで帰ってきました。

(金澤教育長) コミュニティスクールとPTAは多くの部分が重なっていて、組織が違うものの相互に大きな関りを持っているわけですね。

(金澤教育長) 廣川委員から三島中学校の話をお願いします。

(廣川委員) 「みしま竹あかり」というイベントがありますが、そのイベントで中学校がとても良い仕事をしていました。地域で長く続いていたマラソンのイベントが色々な問題で無くなり、地域に関わる中で、中学校が何かできないかと考え、今までのマラソンというメインイベントが無くなり残念だから、地域をもっと明るく強くしていきたいという子どもたちのニーズから、「みしま竹あかり」のイベントに積極的に関わることになったということを知り、地域の方を招いて竹の中に穴を開けて灯籠を作らせていただき、竹あかりのイベントで設置をしたり、吹奏楽部が演奏をするなど本当に積極的に生徒たちが関わっていること、また、それを地域の方々が支えてくれていること、そしてPTAがサポートしている姿が伺えました。小さいコミュニティだからこそできる一体感だと感じました。校長先生や教頭先生が一生懸命に働きかけていると思ったのですが、教育長と先生方の話の中で、コミュニティスクールが実は関わっているとも話されていたので、良い循環、良いサイクルがスタートしていると感じました。

(金澤教育長) 三島学区は保護者が地域の人であり、また、PTAにも所属しています。新町学区と三島学区は環境が全く違いますね。

(大久保委員) 脇野町小は教頭先生が三年目で、子どもの事や顔も全部分かっていて、また保護者のことも分かっていると校長先生が話されていて、校長先生と教頭先生のバランスが良いと感じました。地域の話はしていないのですが、150周年の記念式典のアルバ

ムを作る際に子どもに参加してもらい、子どもたちがアルバムの事業者との折衝はできないと思っていたが、実際はしっかり交渉ができている姿に、大人の目線で「子どもだからできない」ではなく、子どもは小学生でも凄くやれるという話を、良いなあと思いながら聞いてきました。

(金澤教育長) 学校と地域の関係性には、コミュニティスクールもPTAもあるということだと思います。

---

(金澤教育長) これをもちまして、本日の定例会は閉会します。ありがとうございました。

---

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員